

# 犬ドックの検査所見

2014年●月●日

カルテ番号：●●●●-1 氏名：●● ●●●● (●●●● ●●●●) ちゃん,  
2000年●月●日生まれ, ビーグル, 去勢雄

## 一般所見

体重：17.7kg, 心拍数：毎分84回, 体温：38.2℃

**胸部**：軽度の収縮期心雑音(Levine 2)が認められます。呼吸音には顕著な異常は認められません。 **腹部**：触診上顕著な異常は認められません。

## 血算・血液生化学所見 (別紙参照)

**アルカリフォスファターゼ(ALP:763 U/L)の増加、およびコレステロール(333 mg/dL)の増加が認められます**

## レントゲン所見

**胸部**：顕著な異常は認められません。心胸郭比(DV):0.598, VHS:10.4

**腹部**：胃内および腸内に小石(5-10mm大)が散見されます

**骨格**：変形性脊椎症(第5~6胸椎, 第12胸椎~第1腰椎)が認められます

## 心エコー (超音波) 検査所見

LA/AO:1.22, LVIDd:35.9mm, FS:36.0%, LVPWd:6.8mm

**僧房弁前尖に軽度の粘液種様変性が観察され、軽度の僧房弁逆流(僧房弁閉鎖不全症)が認められます**

## 腹部 (超音波) 検査所見

**肝臓**：顕著な異常は認められません。 **胆のう**：少量の胆泥を認められます。

**脾臓**：顕著な異常は認められません。 **消化管**：顕著な異常は認められません。

**腎臓 (左)**：61.0mmX29.1mm, 顕著な異常は認められません。

**腎臓 (右)**：66.7mmX33.8mm, 顕著な異常は認められません。

**副腎 (左)**：4.5mm(頭側), 5.1mm(尾側), 顕著な異常は認められません。

**副腎 (右)**：5.7mm, 顕著な異常は認められません。 **膵臓**：顕著な異常は認められません。

**膀胱**：顕著な異常は認められません(膀胱壁厚：1.5mm)。

## 総合所見

- 軽度の心臓弁膜症(僧房弁逆流(僧房弁閉鎖不全症))が認められます(ACVIM stage B1)。現在、症状が認められないので投薬は必要ないと考えています。今後、「咳が出る」、「疲れやすい」などの症状に留意してください。また、半年から1年毎の定期健診をお勧め致します。
- 少量の胆泥が認められます。老齢犬で比較的多く認められるものです。今後の定期健診等で推移を観察させてください。
- 血液検査でALPおよびコレステロールの増加が認められました。エコーで認められた胆泥との関連性が考えられますが、他に甲状腺低下症などの内分泌疾患などが潜んでいる可能性も否定できません。今後の定期健診等で推移を観察させてください。

(次のページにつづく)